

## 2017 年度後期 学生授業評価アンケート結果に対するコメント

—社会イノベーション学部—

社会イノベーション学部長 伊地知 寛博

《科目開設部門》が社会イノベーション学部である授業科目<sup>1</sup>について、2017年度の前期及び後期に実施された<sup>2</sup>学生授業評価アンケートの結果全体に対してコメントを述べる。

まず、2017年度前後期学生授業評価アンケートの集計結果に対する所見は、14の評価項目のうち13において、5点尺度において全体の平均値が4点以上となっており、概ね高い評価を得ていると考えられる。4点以上となった項目の数は昨年度前期と同じである。授業全体に対する評価である評価項目12「総合的にこの授業を評価できる」は4.37点であった。このほか、評価項目8「授業への教員の熱意を感じた」(4.37点)、評価項目10「シラバスと内容が一致していた」(4.36点)、評価項目3「教員は授業時間を有効に利用した」(4.35点)、評価項目7「教員は教室内が学習にふさわしい状態が保たれるように心掛けた」(4.33点)も高く、全体として授業は適切に実施されていたことが窺える。他方、授業科目の授業形態については、講義、演習、及び(外国語科目のような)実技とあり、また、授業科目ごとの履修者数及び出席者数は異なることから、評価項目9「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」(4.04点)について全体として判断することは難しいが、評価項目14「予習または復習をよくした」(3.62点)は前年度と比較して増加しているとはいえさほど高い値とはいえないことから、授業時間外の学習をさらに促していくことも必要であろう。

集計結果には、授業全体に対する評価である評価項目12「総合的にこの授業を評価できる」について、他の評価科目との相関係数( $r$ )も示されている。その内容を見ると、この授業全体に対する評価は、授業科目により学生自身にとって関心と学力が得られたこと<sup>3</sup>と強く相関していることはもとより、学生がより良く受容できるように授業を適切に実施すること<sup>4</sup>とも比較的強く相関していることが示されている。引き続き、授業の適切な実施に向けて努力を維持していくことが望まれる。

---

<sup>1</sup> 社会イノベーション学部の政策イノベーション学科及び心理社会学科の学生が履修する両学科の教育課程は、社会イノベーション学部が《科目開設部門》となっている授業科目のほか、両学科の教育課程における科目区分別で、「総合教養科目」に配置される授業科目のほとんど、「学部共通科目」に配置される授業科目のほとんど、及び「一般共通科目」に配置される授業科目のすべては、《科目開設部門》が共通教育研究センター、国際センター、及びキャリアセンターのいずれかとなる授業科目で構成されている。

<sup>2</sup> 学生授業評価アンケートは、前期には、前期の半期の授業科目について、後期には、通年及び後期の半期の授業科目について実施された。

<sup>3</sup> 評価項目12「総合的にこの授業を評価できる」と評価項目11「この分野の関心と学力が得られた」との相関 ( $r=0.82$ )。

<sup>4</sup> 評価項目12「総合的にこの授業を評価できる」と、評価項目8「授業への教員の熱意を感じた」との相関 ( $r=0.70$ )、評価項目10「シラバスと内容が一致していた」との相関 ( $r=0.68$ )、評価項目6「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」との相関 ( $r=0.68$ )、評価項目5「教員の話し方は明瞭であった」との相関 ( $r=0.66$ )、評価項目7「教員は教室内が学習にふさわしい状態が保たれるように心掛けた」との相関 ( $r=0.64$ )、評価項目3「教員は授業時間を有効に利用した」との相関 ( $r=0.62$ )。

学生授業評価アンケートの回答用紙の裏面は、3つの質問<sup>5</sup>からなる自由回答記述欄となっており、評点法だけではわからない個々の授業科目に対する履修者からのさまざまな評価や意見等のコメントが示されている。限られた時間内において、回答用紙表面の評点法部分への回答に加え、記述を行って来ている学生諸君には感謝したい。これらのコメントは、まず基本的には授業担当者本人において活用されることが期待されている。現状において、この欄に記述を行った学生は相対的に少数であることから、必ずしも回答者全体の評価を反映しているとはいえないかもしれない。また、一部に不適切な記述が見られることは否めない。しかし全般として、翌年度に向けて、好ましい点をさらに伸ばさせ、また好ましくない点について改善を図る上でたいへん参考となるものである。さて、これらの自由記述について、同一の授業科目に対して、履修者が異なる多くの年度にわたって継続的に、学生から同様の趣旨の改善を求めるコメントが寄せられているものもある。合理的な理由が見いだせない場合には、授業改善が十分には図られていない状況も推定される。このような授業科目については、授業担当者にとどまらず学部として組織的に、引き続き授業改善を図るべく取り組んでいきたい。

最後に、本学生授業評価アンケートは、実施必須科目のすべて、及び実施任意科目の約60%で実施された。また、延履修者数に対する延回答者数は約65%、延回答者数に対する各評価項目における有効回答数は約96%であり、授業に参加していた学生全体の評価を十分に反映した結果であるものと判断できる。ただし、回答欄が分けられている評価項目13及び14と、回答学生自身の授業出席率に関する評価科目1については無回答・無効数の割合が少し高くなっており、学生諸君による注意をより払った回答が期待される。

---

<sup>5</sup> 当該授業科目について、よかった点、改善すべき点、及びその他の意見・感想等を自由に記述することが要請されている。